



資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
関東学院大学非常勤講師
三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀大学・窯芸教室 宮尾正隆教授に師事、佐賀県立有田窯業大学校・常勤講師を経る。

自然を文様で表現する

水と自然の表現

わざと中心をずらし、かしげた様子の透明傘。それぞれ違った太さで直線を描く雨の軌跡、有機的に横につぶれ、傘に当たった雨粒。こんな情景が児童により、食育と図工の連携で表現されました(写真左下)。

日本には梅雨や時雨など、さまざまな雨の言葉があり、中国から伝わった漢字は、日本の風土で咀嚼され、^{あめかんむり} ^{さんずい}雨冠・^{ゆき}^かの文字が水や自然を表します。文様でも雪輪・氷裂・雷・秋草露文(左上、タイトルを囲む文様)など、多くの表現があります。海に囲まれ、多湿で、水田が豊かな風土への畏敬ともいえます。

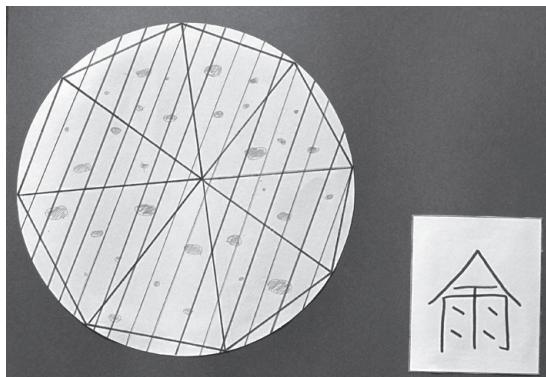
しつらいと文様

自然や神への恐怖・感謝から、さまざまな儀式・行事・特別な日「はれ」が生まれ、

これを執り行う作法の一部、衣食住を整えることが室礼(しつらい)です。古くは厳格に決められたり、参加者の身分によっても細分化していました。現在では晴れ着・晴れ舞台など言葉が残る一方、もてなし・自然を愛めること・喜び祝いなど、室礼は、より日常的な側面を広げています。

食は、今も昔も室礼の中で重要な位置を占め、盛り付けなど、その場を演出し視覚に訴えます。またさまざまな事象・情景が、平面的にデザイン化され文様となり、布や紙・壁面へ取り込まれ、室礼を構成します。当然、うつわ使い・その絵柄にもさまざまな思いが託されます。

おもてなし・室礼に触れる食育として、うつわを目と手で鑑賞し、その後、児童それぞれが思う自然を文様で表現する図工を模索・実施し、一部事例では、図工の先生と積極的な連携ができました(本誌2015年



◀ 6年生の作品、透明傘と雨の文様。
漢字は作品名として創作したもの
(東京都江東区立第五砂町小学校)



▲駅前に展示された第五砂町小学校の作品



▲図工の小田島美智子先生により切り絵で展開した5年生の作品「自分文様」、展覧会で展示された（東京都豊島区立豊成小学校）

6月号特集参照）。プログラムは数日にわたることもあり、外部講師では関わりに限界があります。冒頭の透明傘の文様では過程に立ち会えず、完成後に初めて見た時、その表現に『まさか』と驚きました。担当された図工の成田麻美先生に伺うと、児童自身が考え意図的に表現したという、期待していた答えが即座にいただけました。児童の感受性と表現力にも驚きましたが、自発的で冒険的な児童の思いをよく受け止めながら、そのまま壊さぬ指導が伺い知れ、連携の広がりを感じました。

自然・食・うつわ、図工と美

「一色で季節を表現するなんてすごい」、和食器による給食で、52p左上の文様の茶



▲黒と金で表現された自然が浮き上がる切り絵

（豊成小学校）

碗を使った児童の感想です。どんなありふれた物からでも文様は、琴線に触れた記憶を、デザインとしてシンプルに切り取ります。シンプルだからこそ、さまざまな思いや情景が広がることもあります。豊島区立豊成小学校では、表現した文様が切り絵として完成していました。一色だけが表現できる可能性は、カラーに慣れた児童へ、開かれていました。このような展開が、連携の醍醐味です。

5・6年生に対する図工の学習指導要領と解説から抜粋し意訳させていただきます。「文化的な食器など、暮らしの中に身近にある造形品から、風土・伝統（エピソード）により多くの人々が共有する美しさの感覚を感じ取る」「表現と鑑賞は本来一体であり関連を図る」「つくり表現する喜びは、教科道徳における伝統・文化・命とそのつながり・自然・美しいものや気高いものに感動したり畏敬する心へつながる」。

文化や風土への畏敬、感謝や喜びに発する思いが、おせち料理・お祝い・おもてなしや室礼、さらに美へつながることから、図工とつながる食育の可能性は、まだまだあります。また模索し、ご紹介させていただきたいと思います。

[三信化工（株） 営業開発部 Tel. 03-3539-3424]